



令和5年度

渋沢つうしん

秦野市立渋沢小学校

令和5年11月21日

第7号

Tel 88-7066

《ふれあいまつり》

11月11日(土)にPTA主催のふれあいまつりが開催されました。これまでコロナ禍の影響で3年間実施できず、今年度は4年ぶりの開催です。PTAの運営委員さんと話し合いを進める中で、すべてをコロナ禍前に戻すのではなく、持続可能なPTA行事の在り方を模索してまいりました。その中で特別教室等を利用したイベントをすること、保護者の方々に子どもたちの学習の様子を見ていただくために学習参観と抱き合わせにすることなどが決まっていきました。このように大枠は決めましたが、イベントの内容、実施方法はPTAの各委員さんで様々な工夫をされていました。体験型ゲーム、工作、読み聞かせコーナーなどイベントが多数用意され、工作で作ったものを利用して遊べるスペースまで用意してある周到なしかけが子どもたちを楽しませていました。また、見るだけでワクワクしてしまう校内マップが子どもたちの関心を高めて、各イベントで貼ってもらったシールをうれしそうに見せてくれる子がたくさんいました。2時間という時間設定は短いかなという心配がありましたが、PTA役員の皆様、ボランティアの皆様が効率的な実施方法で運営していただいたおかげで、子どもたちはたくさんのイベントを体験でき、十分満足した様子でした。また、会場の関係で保護者の皆様はイベントには参加できませんでしたが、子どもたちの生き生きとした様子をご覧になられたのではないのでしょうか。中には学校全体を使ったクイズラリーに親子で挑戦している姿も見られ、よいふれあいの場となっていたようです。さらに渋沢中学校からたくさんの中学生がボランティアとしてまつりを支えてくれました。卒業後もなお渋沢小学校を好きでいてくれている、大切に思っていてくれることをうれしく思いました。ある児童の感想には「久しぶりのふれあいまつりで楽しかったです。PTAの人たちが考えて用意してくれたので感謝しています」「ミサガ作りは難しかったけどPTAの人が手伝ってくれたり、一緒に回っていた友達が教えてくれたから楽しくできました」など、様々なふれあう場面が多くみられ、楽しさいっぱい、喜びいっぱいのPTA行事であったと思います。



(追伸)

下校時(まつり終了後、1時間半ほど経過)にお化け屋敷会場の前を通った子どもたちのほぼ全員が「お～！理科室に戻ってる！！」と驚いていました。

《秦野こども未来づくり会議》

11月5日(日)に堀川公民館で「秦野こども未来づくり会議」が行われました。この会は秦野市の取り組みとして平成20年度より、いじめ根絶運動推進リーダーとして各小中学校の代表児童生徒で組織し、15年間活動してきた「いじめを考える児童生徒委員会」を今年度「秦野こども未来づくり会議」へと名称変更し、各学校で児童・生徒の主体性を生かしたいじめ根絶運動に取り組むとともに、明るい未来づくりに向けた夢を語り合う場として活動を展開するものです。本校の代表児童は6年2組の児童2人で、8月17日(木)の活動に続いての参加となりました。活動は中学校区ごとに行われ、渋沢小・中学校代表の児童生徒は話し合いを深めていきました。そこで選んだテーマが「平和な未来のために今できること ～戦争を無くすための取組～」です。このテーマに向かって自分たちにできることを考え、発表資料を作り上げていきました。発表当日、渋沢小学校代表の2名は、自分たちが考えたことがしっかりと伝わるように発表原稿を用意し、堂々と自信をもって取り組む姿がとても立派でした。その発表の中で自分たちができることとして「相手の意見を否定せず、理解してあげることが必要!」というキーワードがありました。その後の協議会の中で司会を務める中学生は「自分たちの未来を考えた時に、現在世界で起きている戦争はなくなって欲しい。そこで今私たち小中学生にできることを考えました」という趣旨の発言をしていました。その他にも子どもたちは自分たちの未来を自分事としてとらえ、これからどのように行動していくかを主体的に考えていました。協議会に参加した渋沢地区の地域の方、PTA役員の方、学校関係者はそのようなやり取りに感心していました。未来は子どもたちのものです。これからもこのような取り組みを継続、支援していきたいです。



《あいさつ運動》

11月15日(水)から17日(金)の3日間、渋沢中学校区一貫教育活動の一環として園・小・中がそれぞれの場所で「合同あいさつ運動」を行いました。渋沢小学校では生活広報委員会、本部委員会の5、6年生が朝の会の時間に各クラスをまわり、あいさつをすることの意義や良さを呼び掛けていました。活動が終わった後、2年生の教室を担当した委員会児童は「2年生は元気よくあいさつを返してくれるので、活動していてとても気持ちがいい」と話していました。また、活動後に委員会担当の先生から委員会児童に「しっかりとやろうという責任感が感じられたところはよかったです。さらに、にこやかにするとあいさつをしてよかったなと相手も思えて、次もあいさつしようという気持ちになるよ。次はそこを頑張ろう。」という声掛けがありました。あいさつする側、される側の双方がさわやかな気持ちになれるように、地域・学校・クラスでのつながりを感じられるように、これからも学校では継続的にあいさつ運動に取り組んでいきます。ぜひご家庭でもあいさつをすることの意義や良さを話し合ってください、行動として表せるようお声掛けください。